

家庭医のための知っておくべき発達障害の基礎知識

～発達障害とは何か？ 医療は何ができるのか？～

日時：平成23年11月20日（日）10:00～15:00

講師：宮本 信也 筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授 場所：大田区産業プラザ

今回は筑波大学大学院人間総合科学研究科の宮本信也教授を講師に迎え11月20日、東京都大田区の大田区産業プラザにおいて「知っておくべき発達障害の基礎知識～発達障害とは何か？ 医療は何ができるのか？～」をテーマに開催いたしました。

発達障害は一生代えられないは誤りであり、特性は変わらなくとも障害の状態は変えられる！

宮本先生は「発達障害児ではなく、発達障害の状態にある児と呼ぶべきであり、支援の必要が無ければ障害の状態にはなく、それは障害とは言えない」との話から始められました。

発達障害はその状態によっていくつかの障害に区分されますが、周囲の理解で特段の支援が必要なければ、障害による特性は変えられなくとも障害の状態は変えることができます。

また先生は以下の英会話で説明されました。

A : Did you have a lunch?

B : No. I didn' t.

A : OK! Let' s go to cafeteria.

英語が少しわかる人であれば「お昼は食べましたか？」と理解し上記の会話は成立しますが、英語がいまいちの人だと『have=持つ』と訳すため「(ランチを持つだから…) お弁当を持ってきましたか？」と訳してしまい「いいえ持ってきませんでした」と答え結果オーライですが会話自体は成立していません。

発達障害児は今の例で『have=持つ』と同じように決めつけてしまうことがあり、ウサギを可愛いと思いついてしまうと「あの猫とても可愛いね」と言っても『可愛い=ウサギ』と覚えているため「耳が違う」と答えてしまうことがあります。

この特性を理解できれば会話になっていない先ほどの会話も納得できると思います。

他にも、そこにはないものや示されていない事項を推測するのが苦手な場合があります。

Q「あなた何年生？」 A「3年生」

Q「あなたは？」 B「千葉に住んでいます」

このようにBさんはAさんと同じ質問をされたと推測できないので「あなたは？」の質問に対し何を聞かれたのか分からないため、住んでいる場所などを答えてしまいます。



発達障害に対する治療方法を語る宮本先生

発達障害の人は時に天才的な特徴があります。一瞬だけ目にした風景を絵で完璧に表現したり、インシュタインなどもADHDだと言われています。

そのほか宮本先生からは発達障害診察のノウハウや問診時におけるコツ、保護者への支援の方法、発達障害児との会話の注意点などを伝授していただきました。

次回セミナーは11月27日、神戸産業振興センターで筑波大学徳田安春教授による「バイタルサイン実践的解釈と身体診察の裏ワザ」をテーマに開催いたします。